

- 坂町県道推進室からのお知らせ -

県道だより

第16号 発行：平成19年5月1日

〒731-4393 広島県安芸郡坂町
平成ヶ浜一丁目1番1号
坂町県道推進室
TEL (082) 820-1536
FAX (082) 820-1523
E-mail: sanken@town.saka.hiroshima.jp

平成19年度スタート！！

～ 新メンバーのご紹介 ～

4月1日から平成19年度が始まりました。
県道推進室も広島県から新たに職員の派遣を受け、新体制でスタートしています。

今年度も県道坂小屋浦線の早期整備に向け、きめ細かい対応で皆様の更なるご理解とご協力をいただけるよう努力して参りますので、よろしくお祈いします。

それでは、新しく県道推進室の一員となる職員をご紹介します。

県道推進室室長補佐

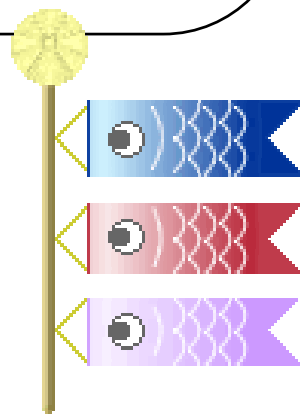
寺尾 直樹 (前職：広島県地域振興部交通対策室企画員)

用地測量にご協力を

昨年度に引き続き、今年度も県道坂小屋浦線1工区の用地測量(境界立会)を実施しますので、ご協力をよろしくお祈いします。

現在、広島県は、平成18年8月に1-2工区の用地測量を実施し、平成19年2月からは1-1工区の用地測量に着手しており、多くの方々にご協力をいただいています。

この用地測量は、移転等の補償金を算定するために必要となる大切な調査です。具体的な検討ができるよう、関係地権者の方々へ詳細な情報を提供させていただきたいと考えていますので、ご理解とご協力をよろしくお祈いします。



「上条トンネルのお話」



右の記事は、昭和26年、畝為吉氏が莫大な私財を投じて、町民のために築造した上条トンネルについての記事です。

畝氏は、故郷“坂町”を想い、『地域のものが協力一致すれば、お互いが共存共栄できる。』という気持ちでこのトンネルを築造されたそうです。

このように、上条トンネルをはじめ、町内の狭い道路は、先人達のご労苦やご協力により、拡幅などの改良が行われ、現在の私達はその恩恵を受け、便利な生活を送ることができています。

今後も、次代を担う子供達やこれからの坂町の発展のために、町民と行政が一致協力して、まちづくりを進めていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をよろしく願います。



中国新聞社提供（掲載日：昭和60年3月29日）

広島県安芸郡坂町に、入り口に「協力一致」「共存共栄」と刻まれたトンネルがある。回町上条の畝為吉さん（右）が三十四年前、ハワイ移民で蓄えた私財で造った。地区民を、峠越えの労から解放した畝さんの古里を想う心は、今更でできる町史に書きとめられる。



二十四日の日曜日、遊園地で、地区の運動会があった。トンネルの完成を記念し、毎年続く運動会だ。トンネルを掘った土で造成した遊園地。季節はずれの運動会にはしゃぐ子供たちに、親がいわれを語り継ぐ。「畝のおじいちゃんがね、みんなのためにトンネルを通っちゃった」

努 古里トンネル



仲よく暮らそう...

畝さんは、農家の長男に生まれ、上条地区の畑は、峠一つ越えた植田地区にあった。魚鱗面にへばりつく段々畑まで、約三百坪の道のり。畑仕事を手伝う為古少年の背に、朝早くから夜遅くまで働いた。おれが重く食い込んだ。トンネル造りの夢は、このころから芽生えたのだった。十六歳の時、一人でハワイへ渡った。完成まで二年四カ月、畝さんは毎日現場で工事を見守った。こうして長さ百十坪、幅四坪、高さ四・五坪のトンネルができた。投じた工費は約千三百万円、畝さんは一つだけ注文をつけた、トンネルに「協力一致」「共存共栄」と刻ませ、古里への思いを託した。畝さんは苦労話も語らず、記念碑の建設話も断り続けてきた。町制三十五周年の記念に掘削中の町史に、トンネルの由来が残るだけである。運動会の日、つえをついてたらず畝さんは、トンネルをくぐる人々を見やりながらつぶやいた。「みんな仲よくすりゃあええ、この仕事はみんながしたもんじゃ」

ほのぼのの話題は編集局報道部

記事記載の「町史」は、「町制施行35周年記念'85町勢要覧」のことです。